

④福祉に関する事項

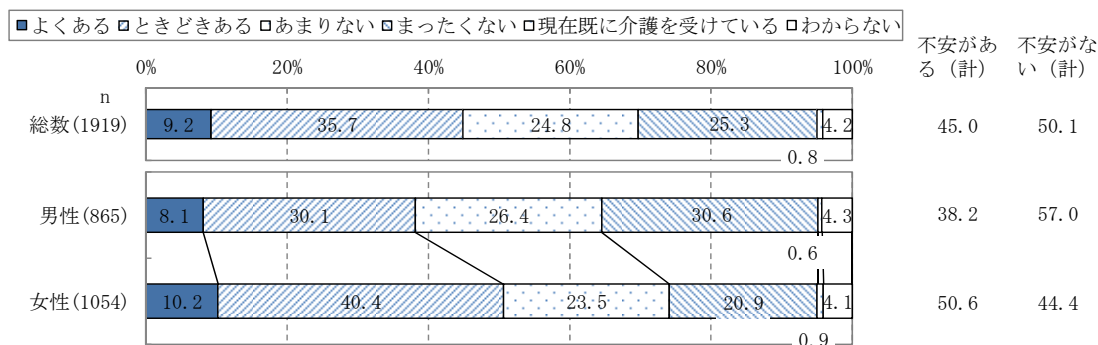
○介護が必要になる不安の有無

75歳以上で約5割の人が、将来介護状態になるのではないかと不安になることがある。

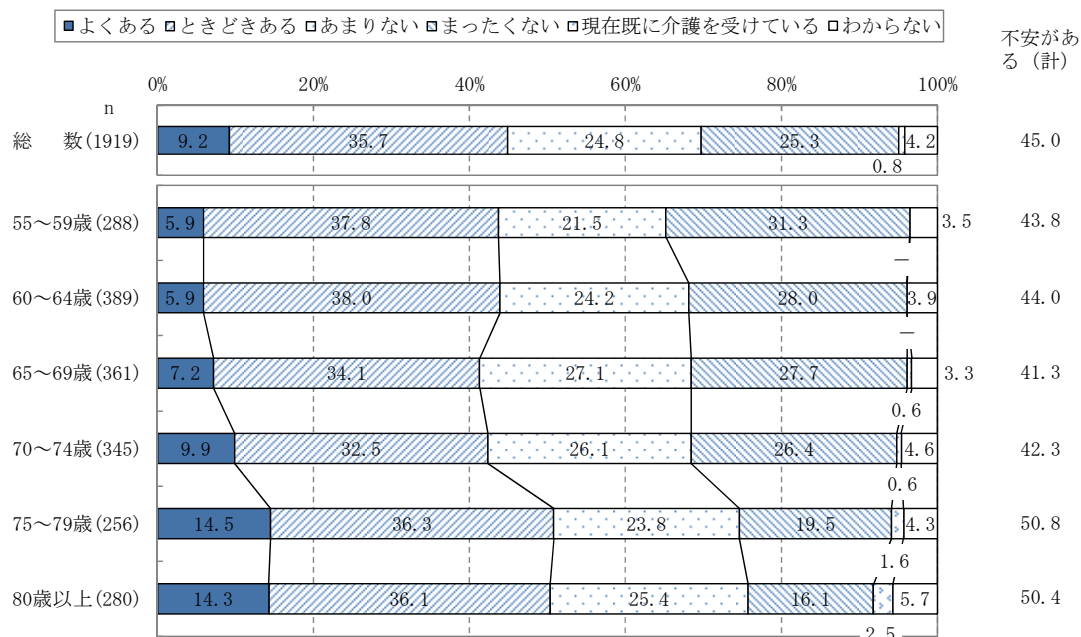
- 最も多いのは「ときどきある」(35.7%)である。以下、「まったくない」が25.3%、「あまりない」が24.8%、「よくある」が9.2%の順となっている。
- 「よくある」、「ときどきある」を合わせた「不安がある(計)」は、男性の38.2%よりも女性の50.6%の方が高くなっている。一方、「あまりない」、「まったくない」を合わせた「不安がない(計)」は、女性の44.4%よりも男性の57.0%の方が高くなっている。
- 年齢が高くなるほど、不安が高まる傾向がみられ、「よくある」、「ときどきある」を合わせた「不安がある(計)」の割合は、75～79歳では50.8%、80歳以上では50.4%と高くなっている。

○「あなたは、将来身体が虚弱になって、日常生活を送る上で、排泄等の介護が必要な状態になるのではないかと不安になることがありますか。」

<性別>



<年齢階級別>



○介護を受けたい場所

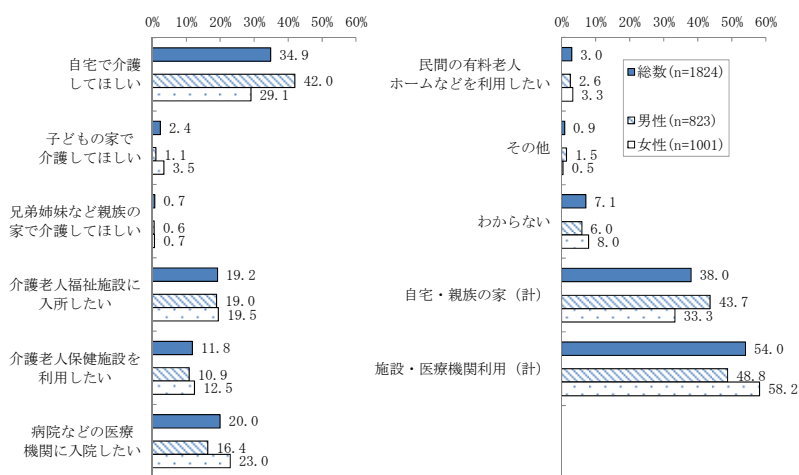
介護を受けたい場所は、34.9%が「自宅」を希望。

- 最も多いのは「自宅で介護してほしい」で34.9%である。次いで「病院などの医療機関に入院したい」の20.0%と「介護老人福祉施設に入所したい」が19.2%、「介護老人保健施設を利用したい」が11.8%などの順となっている。
- 性別にみると、「自宅で介護してほしい」は、女性の29.1%よりも男性の42.0%の方が高い。一方、「病院などの医療機関に入院したい」では男性の16.4%よりも女性の23.0%の方が高い。

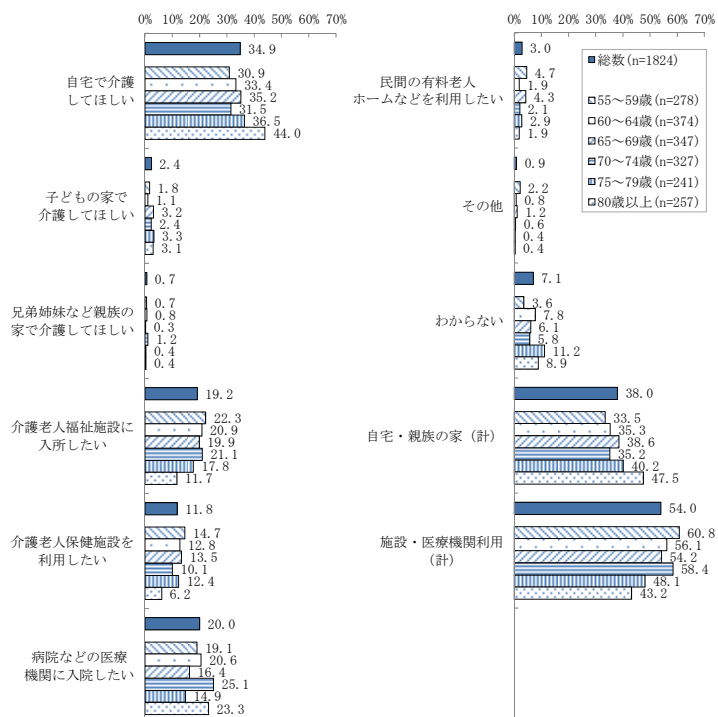
[前問で「よくある」「ときどきある」「あまりない」「まったくない」を選んだ方に]

○「もし仮に、あなたの身体が虚弱になって、日常生活を送る上で、排泄等の介護が必要になった場合、どこで介護を受けたいですか。」

<性別>



<年齢階級別>



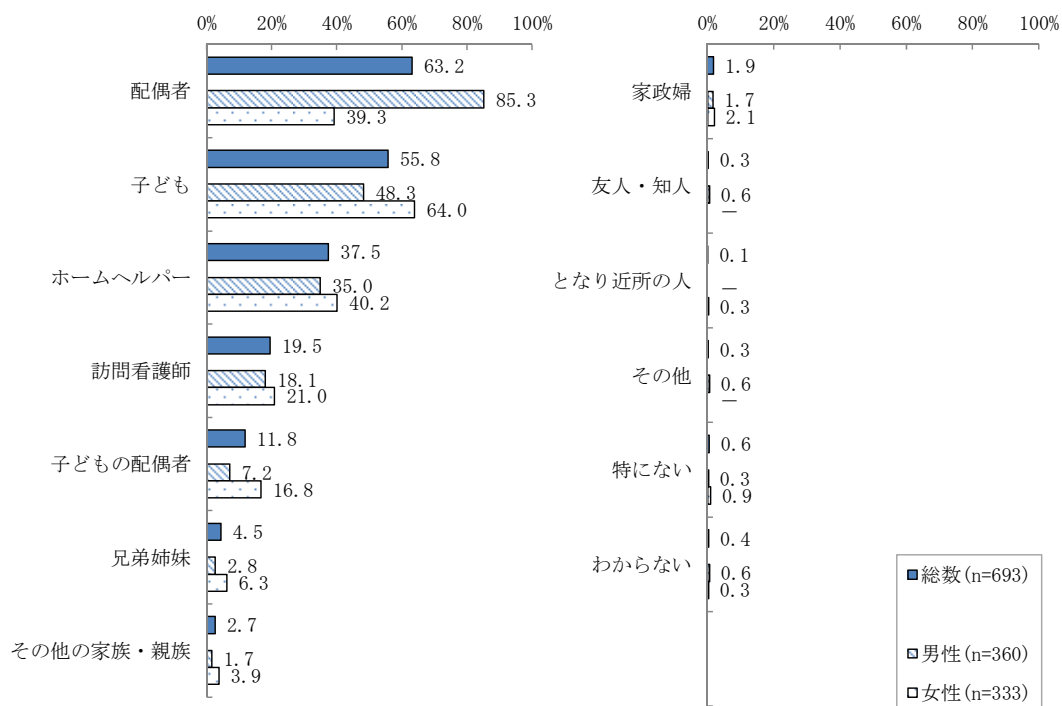
○介護を頼みたい相手

介護を頼みたい相手は、「配偶者」が最も多く、次いで「子ども」、「ホームヘルパー」。

- ・ 介護を頼む相手について、総数では、「配偶者」が63.2%で最も高く、続いて「子ども」が55.8%、「ホームヘルパー」37.5%であった。
- ・ 性別にみると、男性で最も多いのは「配偶者」、次いで「子ども」、「ホームヘルパー」の順であり、女性では「子ども」、「ホームヘルパー」、「配偶者」の順となっている。

[前問で「自宅」、「子どもの家」、「兄弟姉妹など親族の家」で介護してほしいを選んだ方に]

○「どなたに介護を頼むつもりですか。」



○配偶者に介護が必要になる不安について

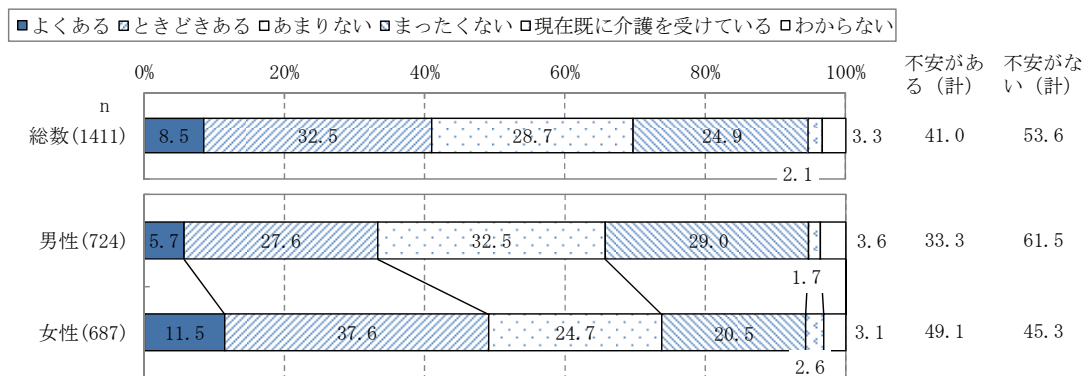
配偶者が将来介護が必要になる不安は、年齢が高くなるほど強まる。

- 最も多いのは「ときどきある」で 32.5%である，以下「あまりない」が 28.7%，「まったくない」が 24.9%，「よくある」が 8.5%となっている。
- 性別でみると，「よくある」と「ときどきある」を合わせた「不安がある（計）」の割合は，男性の 33.3%よりも女性の 49.1%の方が高くなっている。
- 年齢階級別にみると，「よくある」は 75 歳以上で高くなっている。

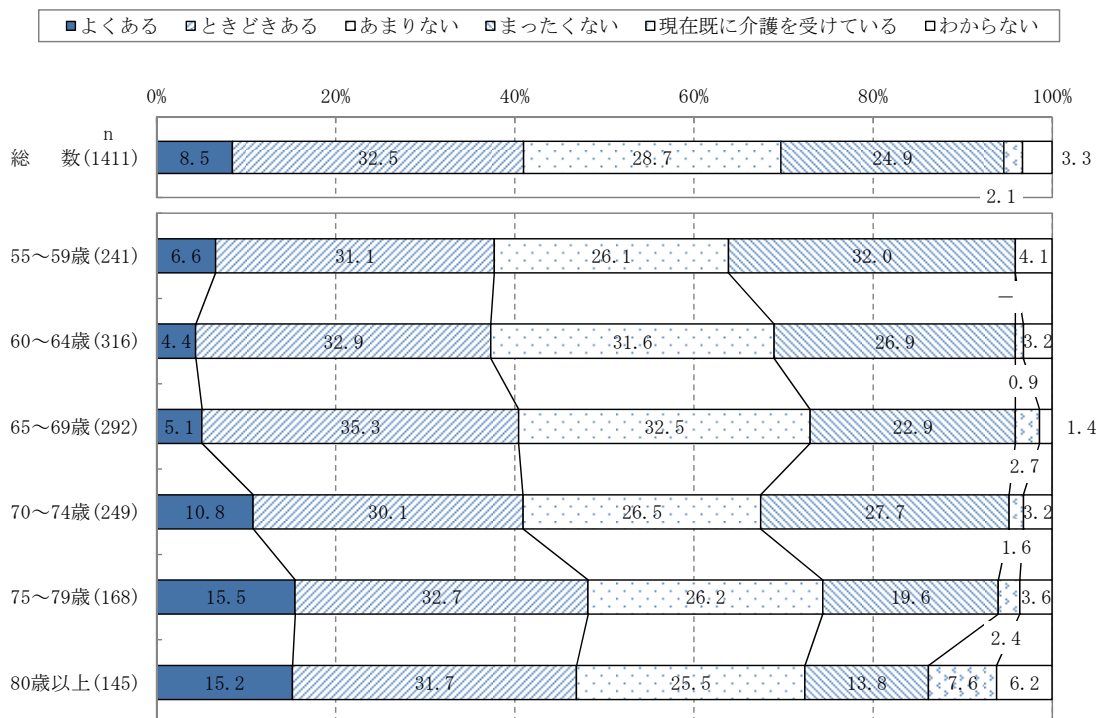
[配偶者と同居している方に]

○「あなたの配偶者について，将来身体が虚弱になって，日常生活を送る上で，排泄等の介護が必要な状態になるのではないかと，不安になることがありますか。」

<性別>



<年齢階級別>



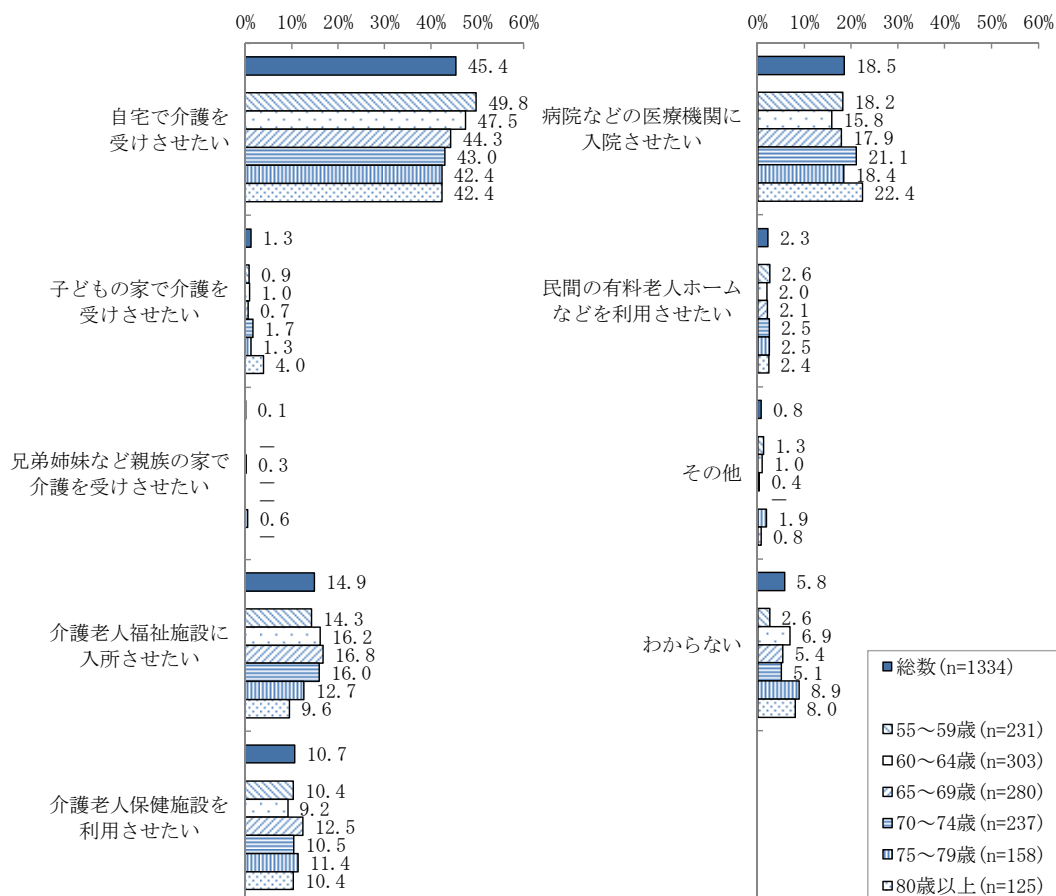
○配偶者に介護を受けさせたい場所

配偶者の介護を「自宅」で受けさせたいと考える人は45.4%。

- 最も多いのは「自宅で介護を受けさせたい」で45.4%である。以下、「病院などの医療機関に入院させたい」が18.5%、「介護老人福祉施設に入所させたい」が14.9%、「介護老人保健施設を利用させたい」が10.7%などの順になっている。
- 年齢階級別にみると、「自宅で介護を受けさせたい」は55～59歳で、「病院などの医療機関に入院させたい」は80歳以上でやや高くなっている。

[前問で「現在すでに介護を受けている」「わからない」以外の回答を選んだ方に]

○「もし仮に、あなたの配偶者のお身体が虚弱になって、日常生活を送る上で、排泄等の介護が必要な状態になった場合、どこで介護を受けさせたいですか。」

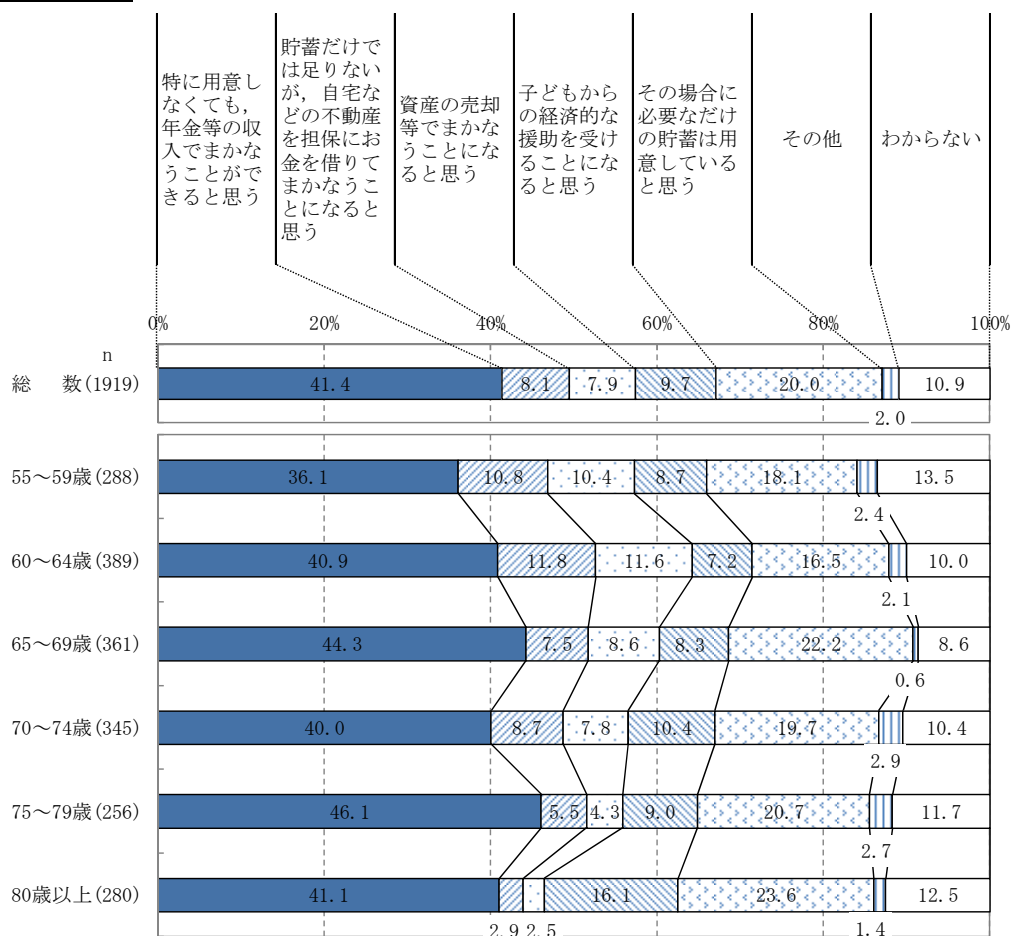


○介護費用をまかなう方法

介護等の費用は「特に用意しなくても、年金等の収入でまかなうことができると思う」が約4割。

- 最も多いのは「特に用意しなくても、年金等の収入でまかなうことができると思う」で41.4%である。以下「その場合に必要なだけの貯蓄は用意していると思う」が20.0%、「子どもからの経済的な援助を受けることになると思う」が9.7%、「貯蓄だけでは足りないが、自宅等の不動産を担保にお金を借りてまかなうことになると思う」が8.1%、「資産の売却等でまかなうことになると思う」が7.9%などと続いている。
- 「子どもからの経済的な援助を受けることになると思う」は、80歳以上で高い。「貯蓄だけでは足りないが、自宅等の不動産を担保にお金を借りてまかなうことになると思う」、「資産の売却等でまかなうことになると思う」は、60～64歳をピークに年齢階級が上がるほど割合が低くなっていく。

○「子どもに介護などの世話を受けたり，老人ホームに入居したり，在宅でホームヘルプサービスを受けたりする場合に，ある程度の費用が必要になりますが，それはどのようにしてまかなうことになると思いますか。」



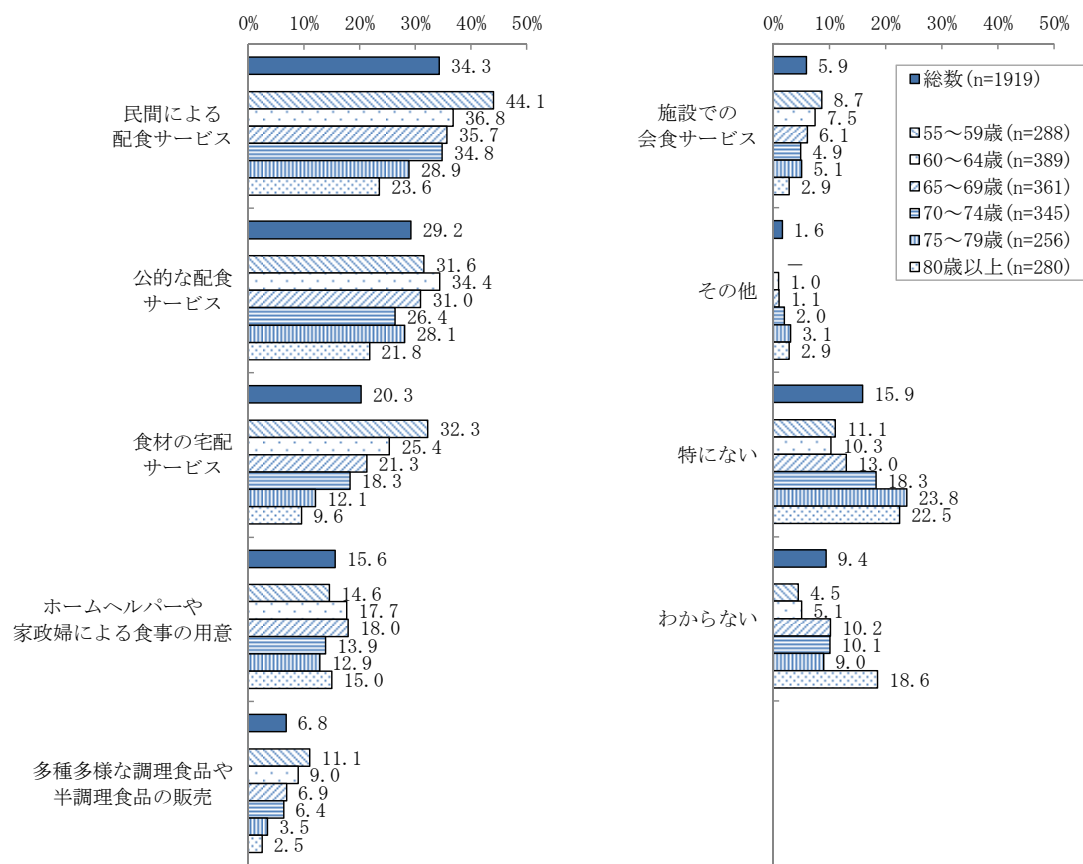
⑤食生活に関する事項

○食事に関するサービスの利用意向について

利用したい食事サービスは、「民間による配食サービス」が最も多く 34.3%。

- 最も多いのは「民間による配食サービス」で 34.3%である。以下「公的な配食サービス」が 29.2%、「食材の宅配サービス」が 20.3%、「ホームヘルパーや家政婦による食事の用意」が 15.6%、「多種多様な調理食品や半調理食品の販売」が 6.8%、「施設での会食サービス」が 5.9%となっている。「特にない」は 15.9%である。
- 年齢階級別にみると、「民間による配食サービス」は 55～59 歳で 44.1%、「公的な配食サービス」は 60～64 歳で 34.4%と高い。「食材の宅配サービス」は 55～59 歳で 32.3%、60～64 歳で 25.4%と高い。「特にない」は 75 歳以上で 2 割を超えている。

○「最近、食事に関する様々なサービスが提供されてきていますが、あなたは今後、仮に自分で食事の用意が出来なくなったり、用意してくれる人がいなくなった場合、どのようなサービスを利用したいと思いますか。」(複数回答)



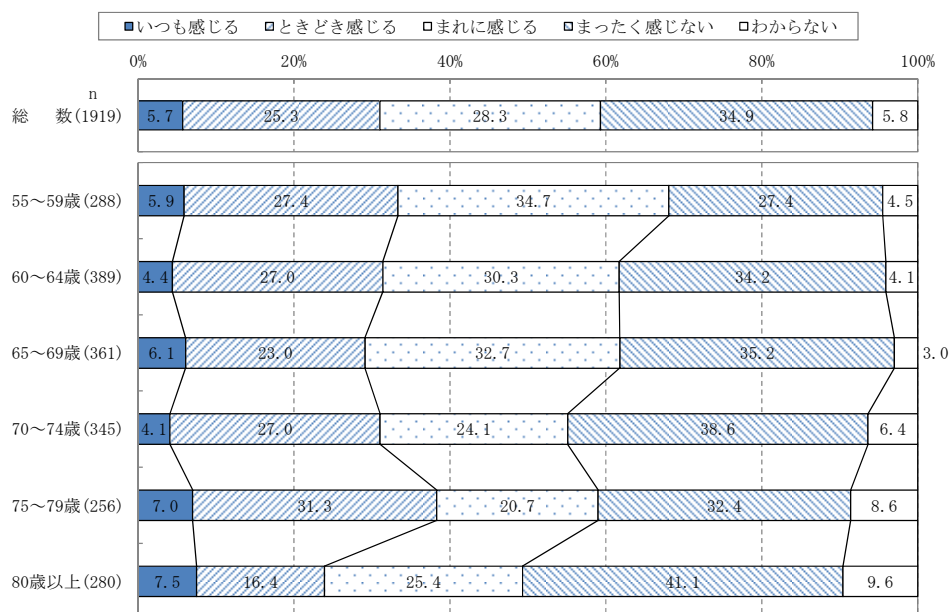
⑥その他の事項

○認知症になる可能性について

認知症になる可能性を「まったく感じない」人が、年齢階級とともに増加傾向。

- 最も多いのは「まったく感じない」で34.9%である。次いで「まれに感じる」が28.3%、「ときどき感じる」が25.3%、「いつも感じる」が5.7%となっている。
- 年齢階級別にみると、「ときどき感じる」は75～79歳で、「まれに感じる」は55～59歳で高い。「まったく感じない」は80歳以上で他の年齢階級より高くなっている。

○「もしもの話ですが、あなたは、ご自分が認知症になる可能性があると感じますか。」

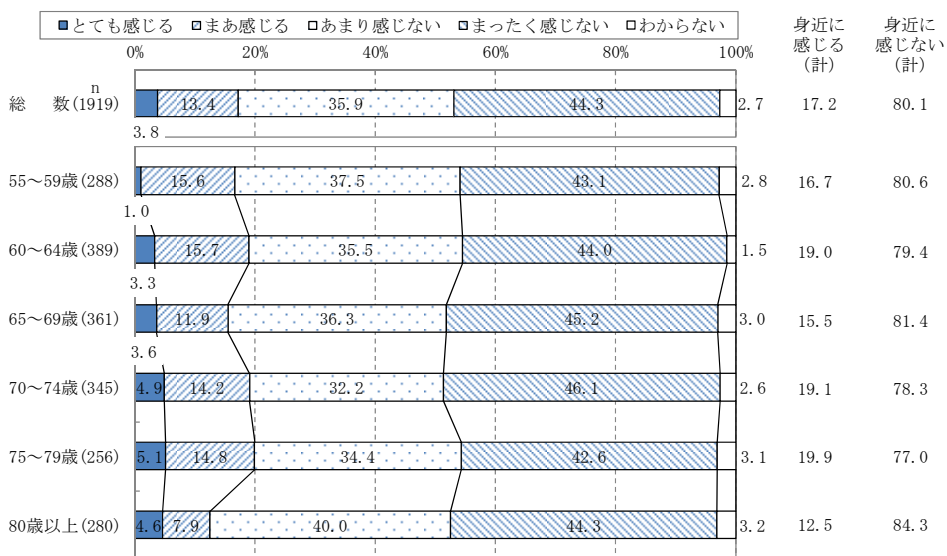


○孤独死を身近に感じているか

「孤独死を身近に感じる」人は2割弱。

- ・最も多いのは「まったく感じない」で44.3%である。次いで「あまり感じない」が35.9%、「まあ感じる」が13.4%、「とても感じる」が3.8%となっている。
- ・年齢階級別にみると、「あまり感じない」は80歳以上で40.0%とやや高くなっている。

○「孤独死（誰にも看取られることなく、亡くなったあとに発見される死）について、身近に感じますか。」



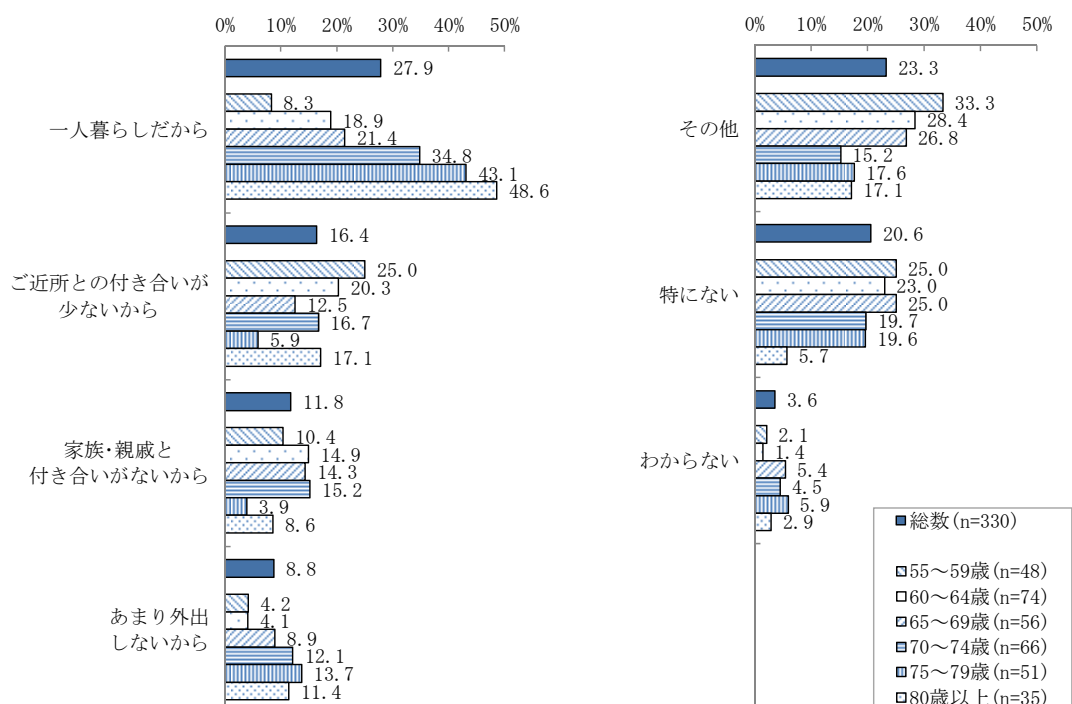
○孤独死を身近に感じる理由

孤独死を身近に感じる理由は「一人暮らしだから」が3割弱。

- 最も多いのは「一人暮らしだから」で 27.9%である。次いで「ご近所との付き合いが少ないから」が 16.4%、「家族・親戚と付き合いがないから」が 11.8%、「あまり外出しないから」が 8.8%となっている。）
- 年齢階級別にみると、「一人暮らしだから」は、55～59歳では 8.3%だが、年齢階級が上がるほどその割合は高くなり、80歳以上では 48.6%となっている。「ご近所との付き合いが少ないから」は 55～59歳で高くなっている。

〔前問で「とても感じる」「まあ感じる」と答えた方に〕

○「孤独死を身近に感じる理由は何ですか。」（複数回答）



⑦高齢者政策や支援に関する事項

○力を入れてほしい政策・支援

今後特に力を入れて欲しい高齢者政策・支援は「介護や福祉サービス」が50.0%。

- 最も多いのは「介護や福祉サービス」で50.0%である。以下、「医療サービス」が40.9%、「公的な年金制度」が39.5%、「高齢者に配慮したまちづくり」が15.9%、「働く場の確保」が12.9%、「高齢者向けの住宅」が10.0%などの順となっている。
- 年齢階級別では、「介護や福祉サービス」、「医療サービス」、「公的な年金制度」の上位3項目は、55～59歳で他の年齢階級と比較して高くなっている。「働く場の確保」は55～59歳、60～64歳で高い。「特にない」は75歳以上で2割を超えている。

○「高齢者に対する政策や支援のうち、あなたが今後特に力を入れて欲しい政策や支援はありますか。」

(3つまでの複数回答)

